

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）	-	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや多	やや多
	トビイロウンカ（防除情報第11号）	やや多	やや多
	コブノメイガ	やや少	やや少
	穂吸汁性カメムシ類	並	並
大豆	ハスモンヨトウ（防除情報第10号継続）	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病（防除情報第12号）	多	多
	炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ）	やや少	並
	ハダニ類（防除情報第13号）	多	多
	ハスモンヨトウ（防除情報第10号継続）	多	多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	並
かんきつ	かいよう病	やや少	やや少
	黒点病	やや少	やや少
	ミカンハダニ	やや少	並
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	少	少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病	少	少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや少	やや少
	チャノホソガ	やや少	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（105筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.1%（0.9%）、発生圃場率は9.5%（13.5%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発生は認めなかった（発病株率0.5%）。

ウ 一部で葉いもちの進行型病斑がみられ、発生が多い圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(105筆)の結果、発病株率は0.7%(1.8%)、発生圃場率は20.0%(22.9%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は12.0%(4.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(105筆)の結果、発病株率は0.6%(0.3%)、発生圃場率は60.0%(14.8%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は0.3%であった(発生を認めない)。

ウ 8月上旬に普通期水稻において発生状況調査(115筆)を行ったところ、発病株率は1.2%と高く、発生圃場率は79.0%とほとんどの地域で発生を認めた(表)。発病程度は少であった。

エ 8月上旬の巡回調査(105筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.4頭(0.2頭)、発生圃場率は71.4%(42.9%)であった。

オ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、普通期、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は1.12頭(0.07頭)、寄生株率は60.0%(6.8%)であった。

表 縞葉枯病発生状況調査における発病株率

調査地点	発病株率(%)
長崎市手熊	0.7
長崎市琴海戸根	1.8
長崎市神浦大中尾	2.6
西海市大瀬戸町雪ノ浦	1.8
西海市大瀬戸町多良	1.8
諫早市森山町田尻	0.1
諫早市森山町昭和開	0
諫早市小野助兵衛竈	0.0
諫早市小野与左衛竈	0.1
大村市鈴田	0.4
波佐見町田の頭	0.6
雲仙市吾妻町干拓	1.4
雲仙市国見町神代	2.0
雲仙市千々石町	1.5
雲仙市愛野町甲	1.8
南島原市有家町平野	1.8
南島原市南有馬町北岡	0.7
南島原市加津佐町新田	1.0
南島原市布津町新田	1.9
佐世保市宮	2.4
佐世保市江上	2.8
佐世保市柚木	1.5
佐世保市針尾	2.4
佐世保市三川内	3.0
佐世保市吉井町福井	1.1
松浦市志佐	1.3
平戸市田平町上亀	1.1
佐々町口石	1.4
五島市岐宿町	0.3
五島市籠淵町	0.3
五島市野々切町	0
壱岐市石田町池田	1.0
壱岐市郷ノ浦町柳田	0.8
壱岐市勝本町新城	0.5
壱岐市芦辺町国分当田	0.8
平均	1.2

参考 平成20年の発病株率

調査地点	発病株率(%)
諫早市森山町田尻	0.2
諫早市森山町昭和開	0.0
諫早市小野助兵衛竈	0.6
諫早市小野与左衛竈	0.2
大村市三浦	0.8
大村市鈴田	0.7
波佐見町志折	0.4
雲仙市吾妻町阿母名	0.5
雲仙市国見町神代	0.6
雲仙市千々石町	1.5
雲仙市愛野町愛津	0.8
南島原市有家町中須川	0.8
南島原市南有馬町北岡	0.5
南島原市加津佐町新田	3.6
南島原市布津町新田	0.3
佐世保市長畑	2.2
佐世保市江上	1.6
佐世保市柚木	1.7
佐々町口石	2.2
佐世保市吉井町直谷	1.7
松浦市志佐	1.4
平戸市田平町上亀	2.0
平戸市紐差	1.2
平均	1.1

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病株は見つけ次第できるだけだけ抜きとる。
- イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意し、出穂期以降のカメムシとの同時防除を行い、密度を下げる。

4. トビイロウンカ

平成21年8月18日付病害虫発生予察防除情報第11号による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(105筆)の結果、食害株率は2.9%(15.8%)、発生圃場率は68.6%(82.7%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は3.0%(33.8%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(29地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は8.8頭(13.3頭)であった(表)。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種別	10回すくいとり当たり虫数						発生地点率	
	H17	H18	H19	H20	平年	H21	平年	H21
ホソハラカメムシ	1.8	1.9	1.2	1.2	1.7	1.2	78.6	72.4
クモハラカメムシ	0.4	1.3	1.0	0.3	1.0	0.3	46.5	58.6
シラホシカメムシ	0.4	0.7	0.9	0.5	1.0	0.5	56.8	41.4
アカシジカスミカメ	7.0	16.6	6.5	3.1	9.7	3.1	65.1	82.8
ミナミアオカメムシ	0.01	0.01	0.03	0.03	0.02	0.06	3.5	20.7
計	9.6	20.6	9.6	5.1	13.3	8.8		

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

すくい取り虫数の平年はH11~20年の最大・小値を除いた平均値

(ミナミアオカメムシはH13~20年の平均値)

発生地点率の平年はH13~20年の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草除去等の圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。

イ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布をおこなうと効果が高い。

ウ 近年、九州北部で発生が増加しているミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

平成21年8月12日付病害虫発生予察防除情報第10号を継続。

その後の発生状況は以下のとおりである。

(1) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は15.7%(3.6%)、株当たり虫数は2.8頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は46.7%(45.0%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生株率は4.0%(2.9%)、株当たり虫数は3.4頭(0.16頭)であった。

- ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年より多く推移している（図）。
エ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

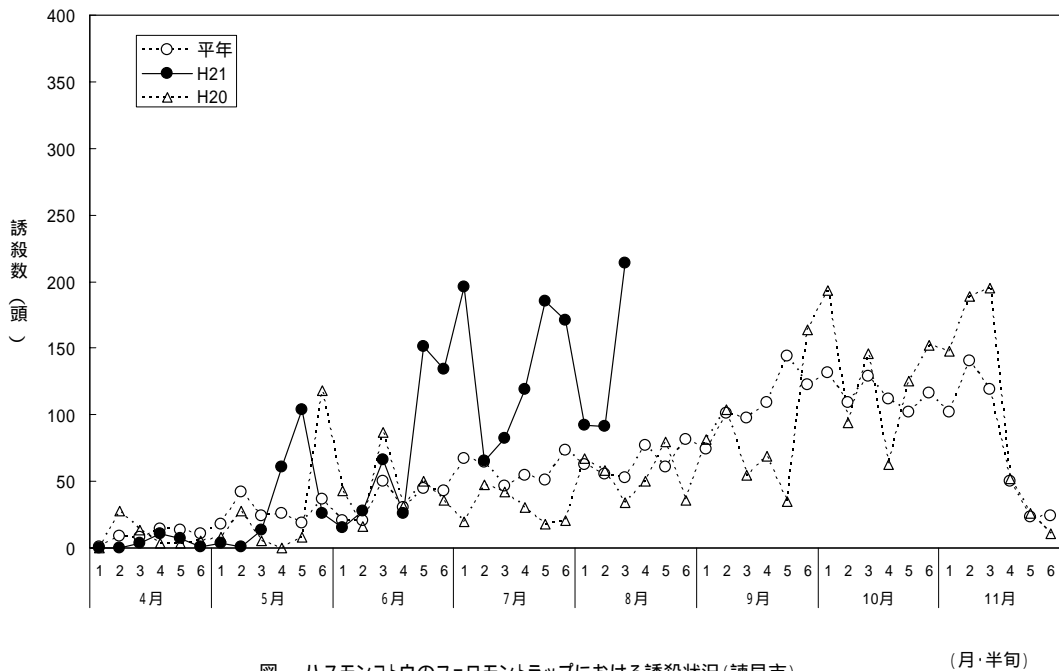


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市）
平年：H11～H20の平均値（最大・小値除く）

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

平成21年8月18日付病害虫発生予察防除情報第12号による。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率10.9%、発病株率0.3%)。

イ 病害虫防除員からの報告では、発生(やや少～並)が確認されている。

ウ 病害虫診断依頼においても、炭疽病の発生が確認されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に進行。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に進行。

エ 夜冷・株処理を行なう場合は、入庫前の抜き取り及び薬剤防除を徹底する。

3. ハダニ類

平成21年8月18日付病害虫発生予察防除情報第13号による。

4. ハスモンヨトウ

平成21年8月12日付病害虫発生予察防除情報第10号を継続。

その後の発生状況は以下のとおりである。

(1) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は4.8%(1.8%)、発生圃場率は75.8%(31.4%)であった(図)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年より多く推移している(大豆の項参照)。

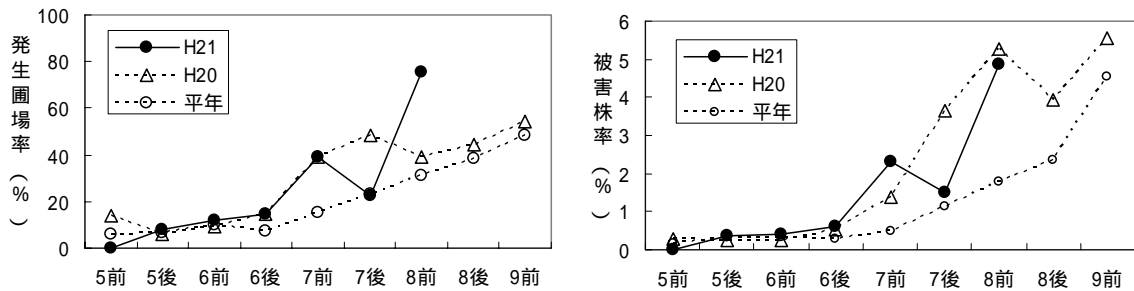


図 いちご育苗床 ハスモンヨトウの発生推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は5.3頭(前年6.3頭、前々年9.9頭)、発生圃場率は33.3%(前年66.7%、前々年100.0%)であった。

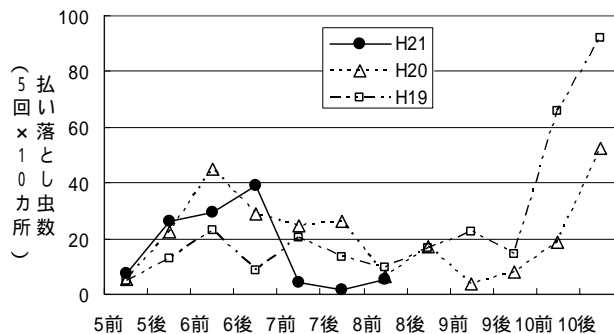


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.6%)、発生圃場率は5.1%(21.3%)、発病果率は0.1%(0.4%)、発生圃場率は5.1%(9.0%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は1.3%(7.4%)、発生圃場率は17.9%(41.5%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は5.7%(14.8%)、発生圃場率は43.6%(61.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率は0.9%(1.6%)、発生圃場率は25.6%(24.0%)、果頂部の被害果率は0.4%(1.1%)、発生圃場率は12.8%(12.5%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

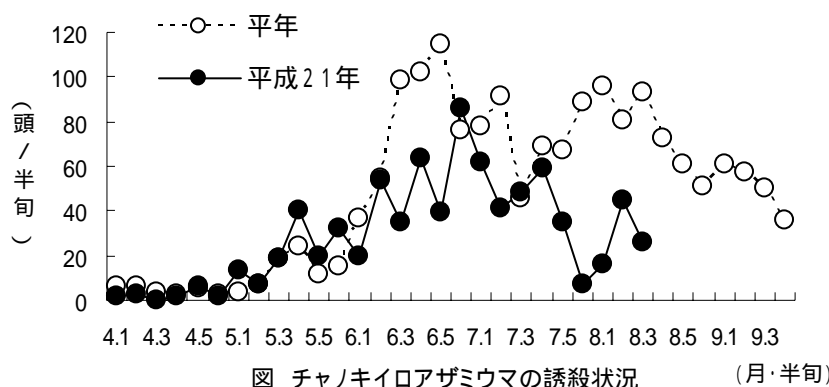


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

アメダス地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津
第6世代	8 / 23	8 / 25	9 / 5	8 / 20
第7世代	9 / 11	9 / 13	9 / 28	9 / 7
標高(m)	27	4	43	10

注1: 使用する気温データには各地域のアメダスデータを利用した。
 注2: 平成21年8月17日時点で予測し、8月14日以降のデータは過去3年分の平均値を利用した。
 注3: 山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.3%(4.9%)、発生圃場率は20.0%(60.0%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率6.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年並に推移している(図)。

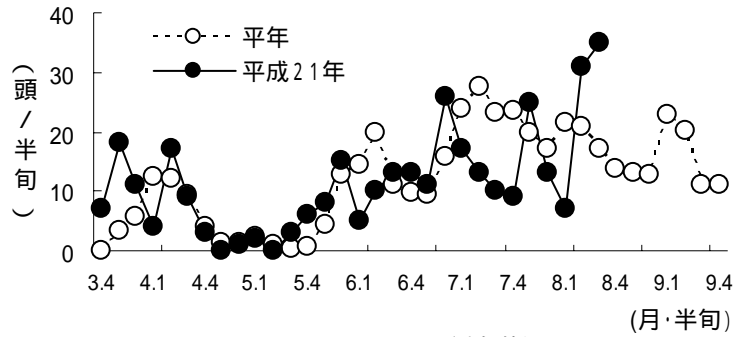


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内14地点の平均着生程度は2.4(平年3.1)で平年よりやや少ない(表1)。

イ 7月下旬に実施したピーティング調査の結果、ヒノキ1枝当たりの寄生虫数は2.6頭(平年1.2頭)で、平年よりもやや多い(表1)。

ウ 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している。

エ ヒノキきゅう果の口針鞘数から予測される果樹園への飛来時期は表2のとおりである。

表1 ヒノキにおけるカメムシ類の寄生状況(虫数/枝)

	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計	きゅう果着生程度
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計		
平成11年	0.4	0.2	0.2	0.6	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	1.5	
12年	0.4	0.3	0.2	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
13年	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	4.2
14年	0.6	0.2	0.4	0.5	1.6	0.1	0.1	0.2	0.7	1.2	2.8	3.3
15年	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	3.7
16年	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.0
17年	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	4.8
18年	0.6	0.8	0.8	0.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	3.0	2.9
19年	0.1	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.6
20年	0.5	0.3	0.2	0.5	1.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.4	1.8	4.4
平年値	0.3	0.2	0.2	0.3	1.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	1.2	3.1
21年	0.5	0.6	0.8	0.5	2.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	2.6	2.4

*寄生状況はビーティング調査により、平成21年7月24日及び30日に行った。

*きゅう果着生調査は平成21年7月6日及び13日に行った。なお、着生程度は5段階(多:5、やや多:4、中:3、やや少:2、少:1)で区分し、平年値を平成20~13年及び8~9年の平均とした。

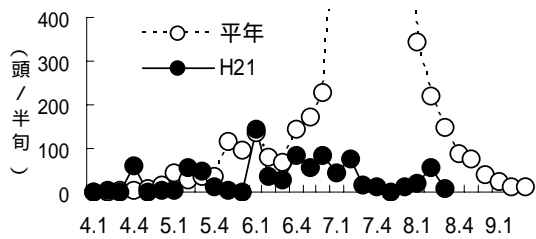


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色カネコル)

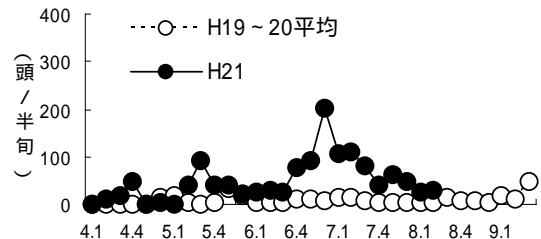


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(月・半旬)
(西彼:黄色カネコル)

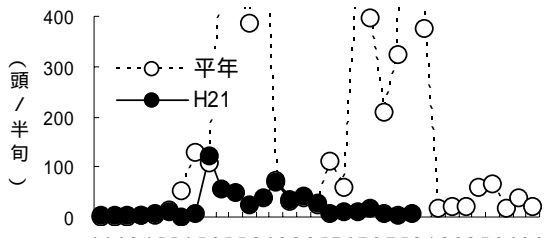


図 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況 (月・半旬)
(有家:黄色カネコル)
平年は平成17~20年の平均

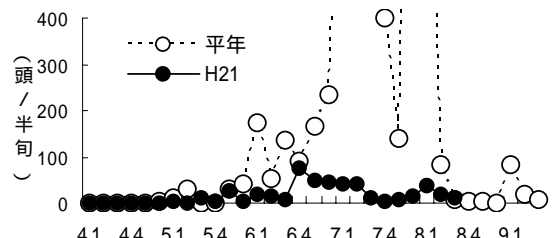


図 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況 (月・半旬)
(多良見:黄色カネコル)
平年は平成17~20年の平均

表2 ヒノキきゅう果の口針鞘数及び果樹園への予測飛来日

地域名	口針鞘数	予測飛来日	地域名	口針鞘数	予測飛来日
諫早市多良見町東園	4.1	9月1日	東彼杵町赤木	0.1	9月15日
長与町岡	1.8	9月9日	佐世保市針尾	2.0	9月8日
時津町子々川	3.7	9月2日	佐世保市宮	3.2	9月4日
西海市西彼町小迎	2.6	9月6日	雲仙市瑞穂町伊福	2.6	9月12日
〃 西海町木場	3.2	9月4日	〃 国見町百花台	1.1	9月18日
諫早市長田	3.6	9月8日	南島原市有家町新切	1.6	9月16日
大村市今村	3.6	9月8日	〃 北有馬町田平	1.6	9月16日

注1 7月24日、30日にきゅう果30果を採集し調査した。

注2 きゅう果1果当たりの口針鞘数が25以上になると、きゅう果は餌として適さなくなるため、カメムシはヒノキから離脱し果樹園に飛来する。

注3 予測日は福岡県農業総合試験場作成による予測式を利用した。

(3) 防除上注意すべき事項

ほぼ全ての調査地点のヒノキきゅう果にチャバネアオカメムシの寄生を認めており、ヒノキ林付近の園地では飛来する可能性がある。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生は見られなかった(1㎡あたり発病葉数3.7枚、発生圃場率60.0%)。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は14.8頭(16.3頭)、発生圃場率は85.0%(73.4%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数0.0枚(0.2枚)、発生圃場率は10.0%(15.5%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年より少ない(図)。

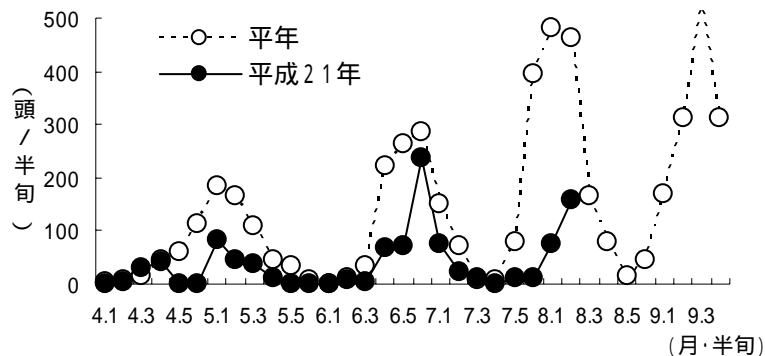


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.4枚)、発生圃場率は5.0%(15.8%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

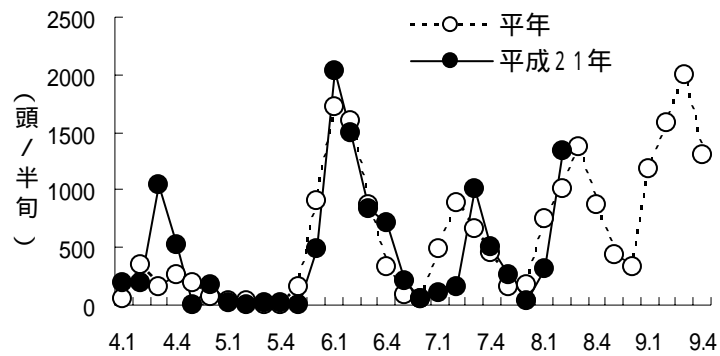


図 チャノホリガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) (月・半旬)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は5.0%(8.8%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.8頭(1.5頭)、発生圃場率は60.0%(44.4%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は8.3%(6.9%)、発生圃場率は50.0%(34.2%)であった。

